

定置網情報

第1号 1994年12月

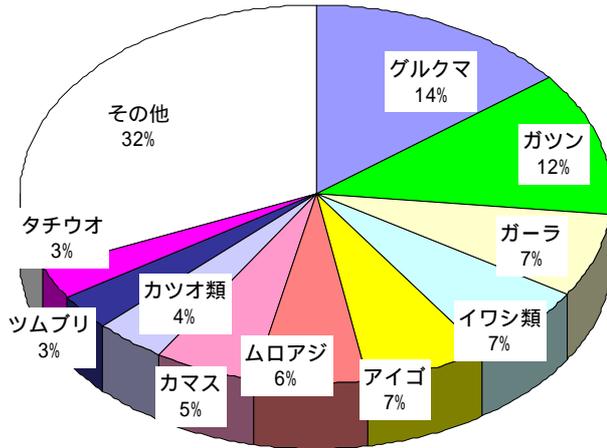
沖縄県水産試験場

901-03 沖縄県糸満市西崎1-3-1

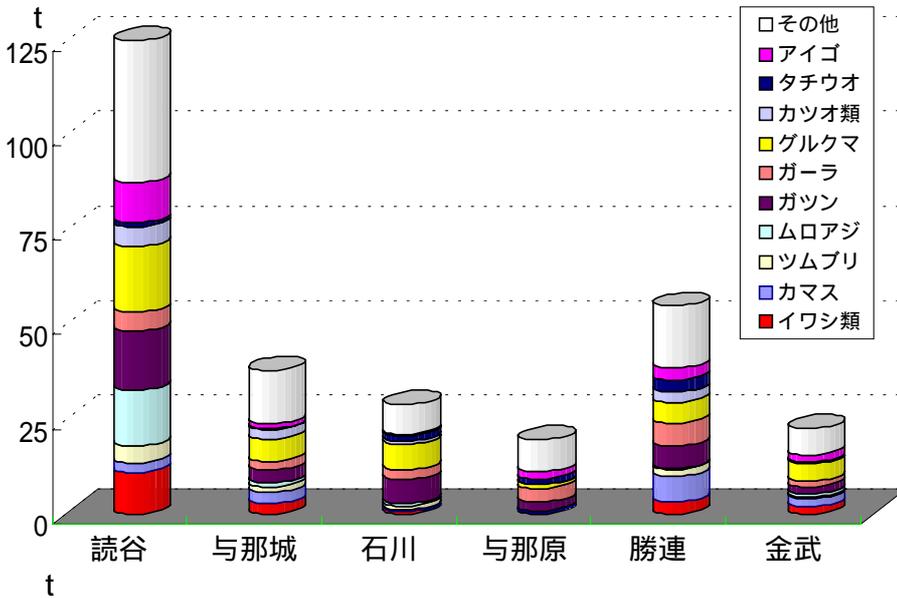
電話 098-994-3593・3597

ファクシミリ 098-995-2357

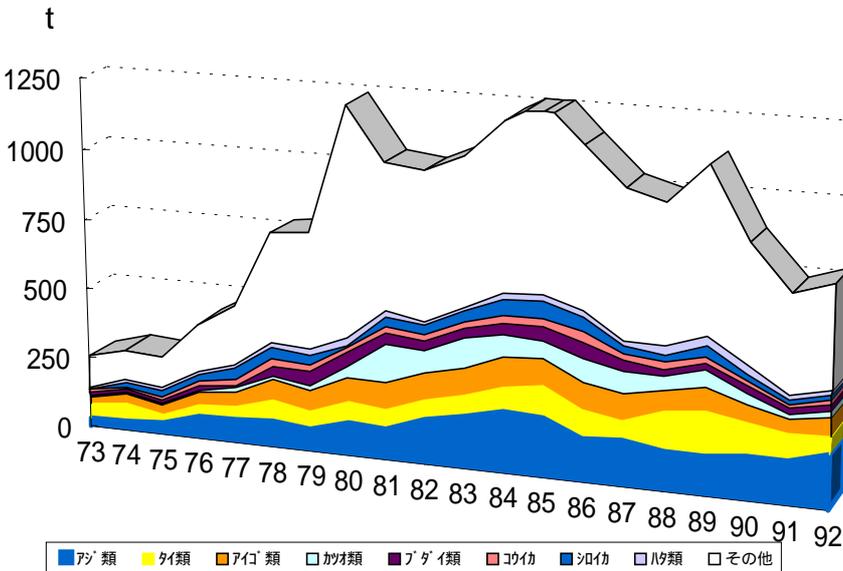
定置網魚種別構成



1994年の読谷、与那城、石川、与那原、勝連、金武漁協の定置網の漁獲物では、グルクマ、ガツン、ガーラ等の順に漁獲量が多かった。



漁協別では、読谷が最も漁獲量が多く、勝連、与那城と続いた。



沖縄農林水産統計年報（沖縄総合事務局）によると、定置網の生産量は1980年まで急激に増加したが、その後は変動しながらも減少傾向にある。

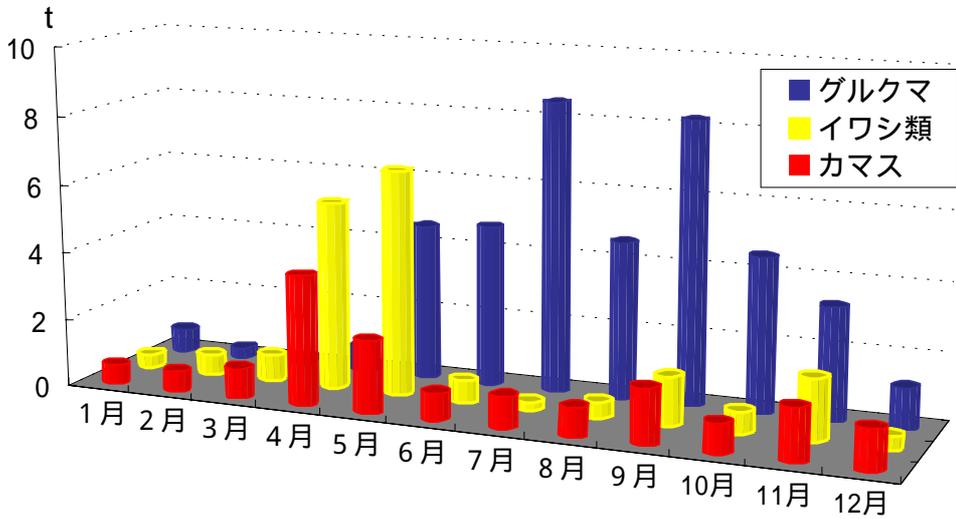


カマス



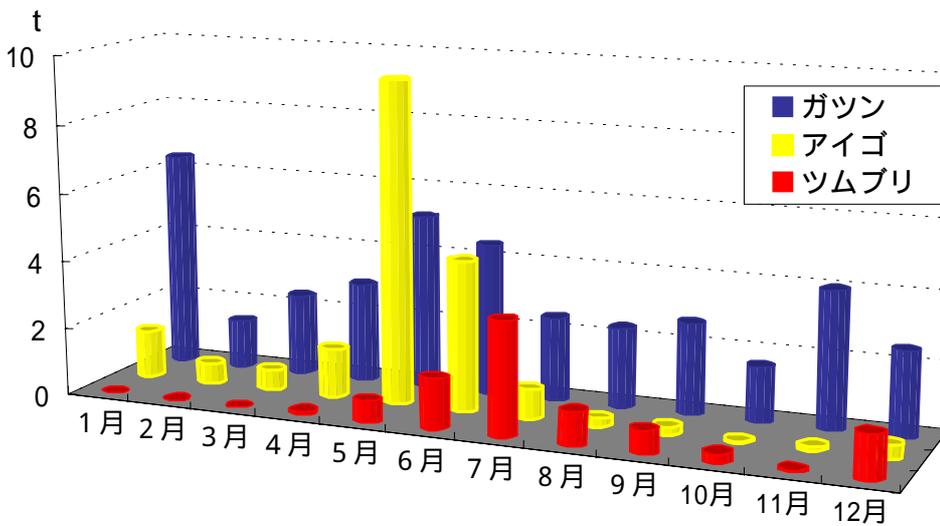
アイゴ

月別生産量



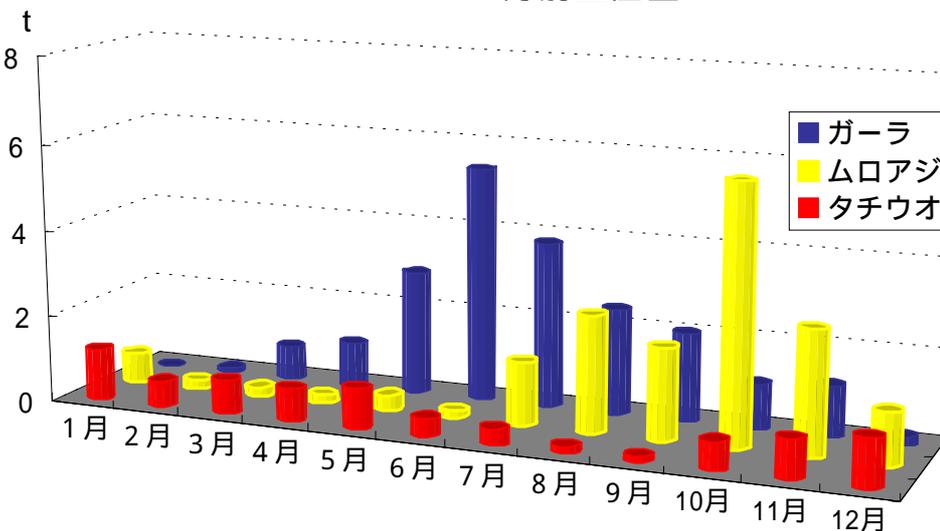
1994年では、グルクマは初夏から秋にかけて漁獲が多く、イワシ類は春に漁獲が多かった。カマスは周年漁獲されたが、春と秋に多かった。(12月は1993年の漁獲)

月別生産量



ガツンは周年漁獲されたが、夏と冬に多かった。アイゴは5月と6月に産卵群が集中して漁獲された。ツムブリは夏場に多く漁獲されたが、12月も多かった。

月別生産量



ガーラは夏場を中心に多く漁獲された。ムロアジは秋に多く漁獲された。タチウオは1994年は不漁であったが、周年少しづつ漁獲された。

魚の絵は一部「方言でしらべる沖縄の魚図鑑」横井謙典著より